

## 室山野用水の開さくのまとめ（年表）

年	かかわった人物	工事の内容・出来事
1803年 きょうわ 享和 3年	<small>いちだ ぶんえ もん</small> ・市田文右衛門  <small>さくのじょう</small> ・作之丞	<small>いおりむら</small> 早月川上流の伊折村（上市町）から水を取り入れることを考えた。約10キロメートルの用水路を掘る工事を計画したが、工事途中でかたい岩石にぶつかったり、土砂くずれがおこったりして、工事は中止になった。
1814年 ぶんか 文化 11年	<small>とうごろう</small> ・市田藤五郎  ・作之丞  <small>たからだそう べ え</small> ・宝田宗兵衛	約10キロメートルの用水路を掘ることに、無事成功。しかし、水を通すと土砂崩れで用水路がうまってしまい、水は流れなかった。直しても直しても用水路には土砂が流れこみ、工事は中止になった。
1825年 ぶんせい 文政 8年	<small>しいな どうさん</small> ・椎名 道三	水の取入口をやや下流に変更し、土砂が崩れにくいがけのふちの岩にそって用水工事を進めた。金づち等の道具だけで、多くの岩をけずってトンネルを掘ったり、多くの土砂や岩石を運び出したりした。また、地ばんを強くするために、2000本のくいを打ちこんだり、長短合わせて13か所のずい道（トンネル）を掘ったりした。1827年、ついに16キロメートルにもなる用水路が完成し、豊かな水が室山野台地に流れてくるようになり、多くの農民のくらしが成り立つようになった。
1854年 あんせい 安政 元年		節水作業中に折戸村の庄九郎が谷底に落ち、亡くなる。（庄九郎落とし）
1864年		節水作業中に早月中村の四郎三郎が谷底に落ち、亡くなる。
現在		現在も国や県、市の費用で改修工事が行われている。土砂崩れで用水路が止まることが少なくなった。